

活動指導案

実践団体名 新中町防災会

■基礎データ

2009-32

① タイトル

「防災用燈火器」「ほのぼのあかり」を活用した地域コミュニケーション活動 ～『新中町夏あかり』～

② 活動の概要

地域住民の子どもから熟年層まで参加して作成した防災用燈火器「ほのぼのあかり」とペットボトルを再利用した燈火器を公園に設置する。そして、みんなで火を付けてあかりの怖さとほのぼのした癒しを感じつつ、盆踊りや花火をして地域住民のコミュニケーションを図る。

③ 目標・ねらい

防災を目的として 身近にあるので灯りを作りながら、災害時の不便な状況を考えながらキーワードに気心しれたコミュニティづくり

④ 活動で上げることが
できる力・能力

あかり作りを通した、いざとなった時に連携できる気心しれたコミュニティづくり

⑤ 対象者（受ける側）

地域住民

⑥ 活動・作業形態

「ほのぼのあかり」製作は屋内(自治会館)、燈火器(ほのぼのあかり、ペットボトル式)設置は屋外(公園)、盆踊りと花火も屋外(公園)

⑦ 準備するもの
(道具、材料等)

燈火器(①ほのぼのあかり(約100個)=ガラス瓶、サラダオイル、ティッシュ、アルミホイル ②ペットボトル式(1000個)=2Lペットボトル、3cm釘、ローソク、カッター、はさみ、水)、イベント備品一式(脚立、延長コード、マイク、テント、拡声器、バケツ、投光器、メジャー、ひも、ビデオ、写真、花火、飲み物等)、場所(自治会館、公園)

⑧ 所要時間

事前準備:4~7月ペットボトルの粗大ゴミから収集とガラス瓶の収集、6~8月実行委員会運営(準備、日程調整、内容検討)
本番:8月第2週目の土曜日、13:00~14:00 ほのぼのあかり製作実演、18:00~20:00 夏あかり(点火、盆踊り、花火)
事後処理等:本番終了後 20:00~21:00 撤収、翌日(日曜日)残り後片付け

⑨ 必要なマンパワー
(実施者、役割、人数)

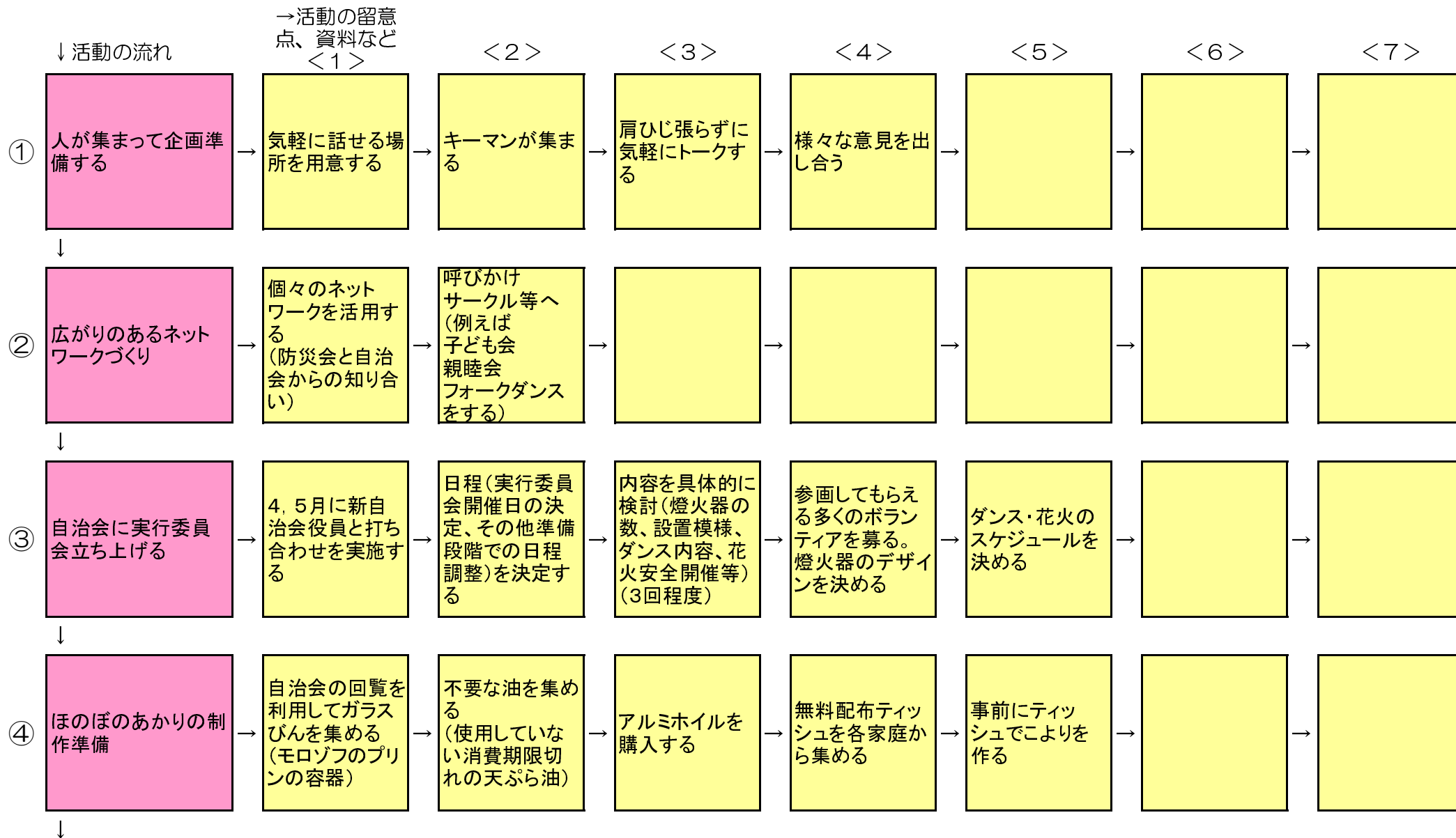
実行委員会メンバー:自治会役員と防災会役員(約15名)、各サークル役員(子ども会、親睦会、フォークダンスクラブ=約5名)
その他スタッフ:自治会委員(組長15名)、各サークルのメンバー数名、備役3名)

⑩ 必要経費
(所要額、財源)

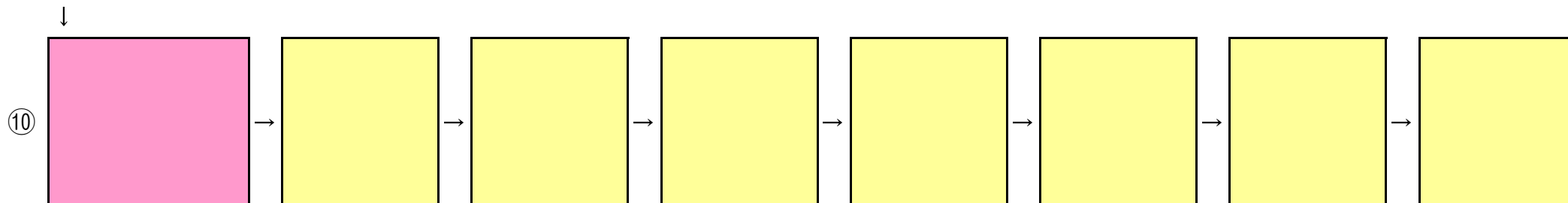
自治会費:20,000円程度(ローソク、花火、飲み物、イベント保険代、その他消耗品 等)

※防災会の費用負担でなく自治会が費負担をする。

■活動の流れ







■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

次年度の参加率の向上(参加人数の増加) 150/200世帯

②その他の評価

マスコミに取り上げられる、他地域からの評判

■備考・その他(活動のコツなど)

①活動のコツなど

声かけをまめにする

②参考資料等

写真・チラシ

※ 活動指導案作成のための準備物 : ①写真(活動の代表的な写真、流れがわかる写真等)、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

活動指導案

実践団体名 新中町防災会

■基礎データ

2009-33

① タイトル

気軽に話し合える交流の場・喫茶「なかま(仲間)っ茶屋」を作る

② 活動の概要

防災・防犯をキーワードに気心しれたコミュニティづくりをめざし、地域住民だれでも参加できてワイワイガヤガヤ話せる交流の場を提供する。

③ 目標・ねらい

「防災・防犯」をキーワードに気心しれたコミュニティづくり、実際のイベントの企画につなげる

④ 活動で上げることが
できる力・能力

・地域住民とのコミュニケーション力の向上
・地域住民が感じている地域の課題等について話し合いができることから、課題解決策を考えられる企画力と調整力が築かれる

⑤ 対象者（受ける側）

地域住民

⑥ 活動・作業形態

①場所：自治会館
②参加者数：10～15名程度（お茶やお菓子を食べながら2時間程度の話し合い）

⑦ 準備するもの
（道具、材料等）

・文房具関係（模造紙、マジック、ポストイット、筆記用具等）
・お茶、コーヒー、紅茶、ポット
・お菓子については、参加者が持参する。

⑧ 所要時間

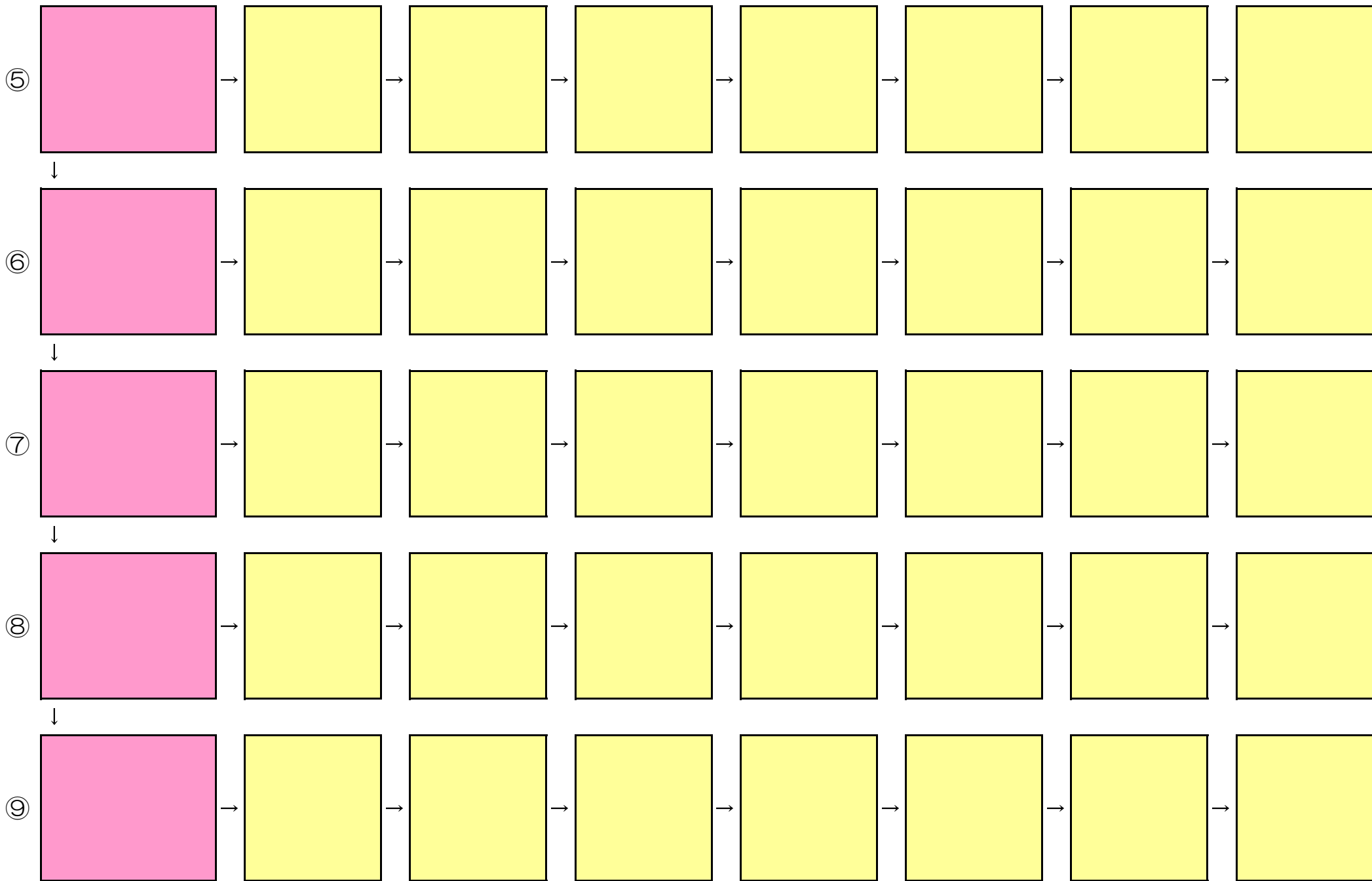
2時間程度

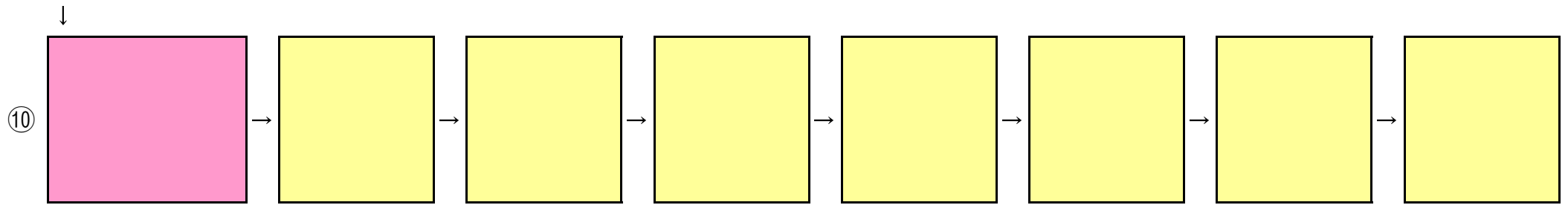
⑨ 必要なマンパワー
（実施者、役割、人数）

・ファシリテーター（誘導者）1名
・参加者数：10～15名程度（防災役員＋自治会役員＋自治会班長）

⑩ 必要経費
（所要額、財源）

・事務費（文房具関係）2,000円程度
・飲み物：各役員からの持ち寄り





■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

・「なかまっ茶屋」の話し合いの中から、新たな展開を生み出す。例えば、別の気心しれてた交流の場を創出する。地域特性のイベントや祭りを作り出す。

②その他の評価

・広がりのある人的ネットワークを築ける。

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

・参加者全員から意見を聞く。
 ・決して意見に対して否定しない。(ダメだししない。)
 ・常に、意見に対して妥協点を見いだす努力を怠らない。

・緩い雰囲気を実施する
 ・身の丈サイズで始めよう
 ・続けられることが大事

②参考資料等

※ 活動指導案作成のための準備物：①写真(活動の代表的な写真、流れがわかる写真等)、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

活動指導案

実践団体名 新中町防災会

■基礎データ

2009-34

① タイトル

防災コミュニティ新聞「新中町防災通信」を発行する

② 活動の概要

・自治会の全世帯に対して、1年間の活動を紙媒体(A3両面1枚カラー刷り)にて写真を中心とした報告書を新聞風に編集し、防災コミュニティ新聞「新中町防災通信」として全世帯に1枚ずつ配付する。

③ 目標・ねらい

全世帯に対して、防災活動について周知徹底すると共に、理解と賛同を得る。また、当自治会以外に対しても情報発信ツールとして活用する。

④ 活動で上げることが
できる力・能力

・防災通信を通じて話のネタが出来てコミュニケーションが図れることで、コミュニケーション力が向上する。
・「防災通信」作成者(編集者)のエクセル操作技術が向上する。

⑤ 対象者(受ける側)

・自治会会員(全世帯)
・その他、この通信に興味がある関係団体(自治会、市町村自治体)へ配付

⑥ 活動・作業形態

年間の各活動記録を写真とコメント等でまとめて、A3両面カラー刷り1枚を全世帯へ総会資料と共に配付

⑦ 準備するもの
(道具、材料等)

デジタルカメラ、パソコン、カラープリンター、エクセルソフト

⑧ 所要時間

編集作業: 2ヶ月
写真記録: 防災活動毎にデジタル写真にて記録

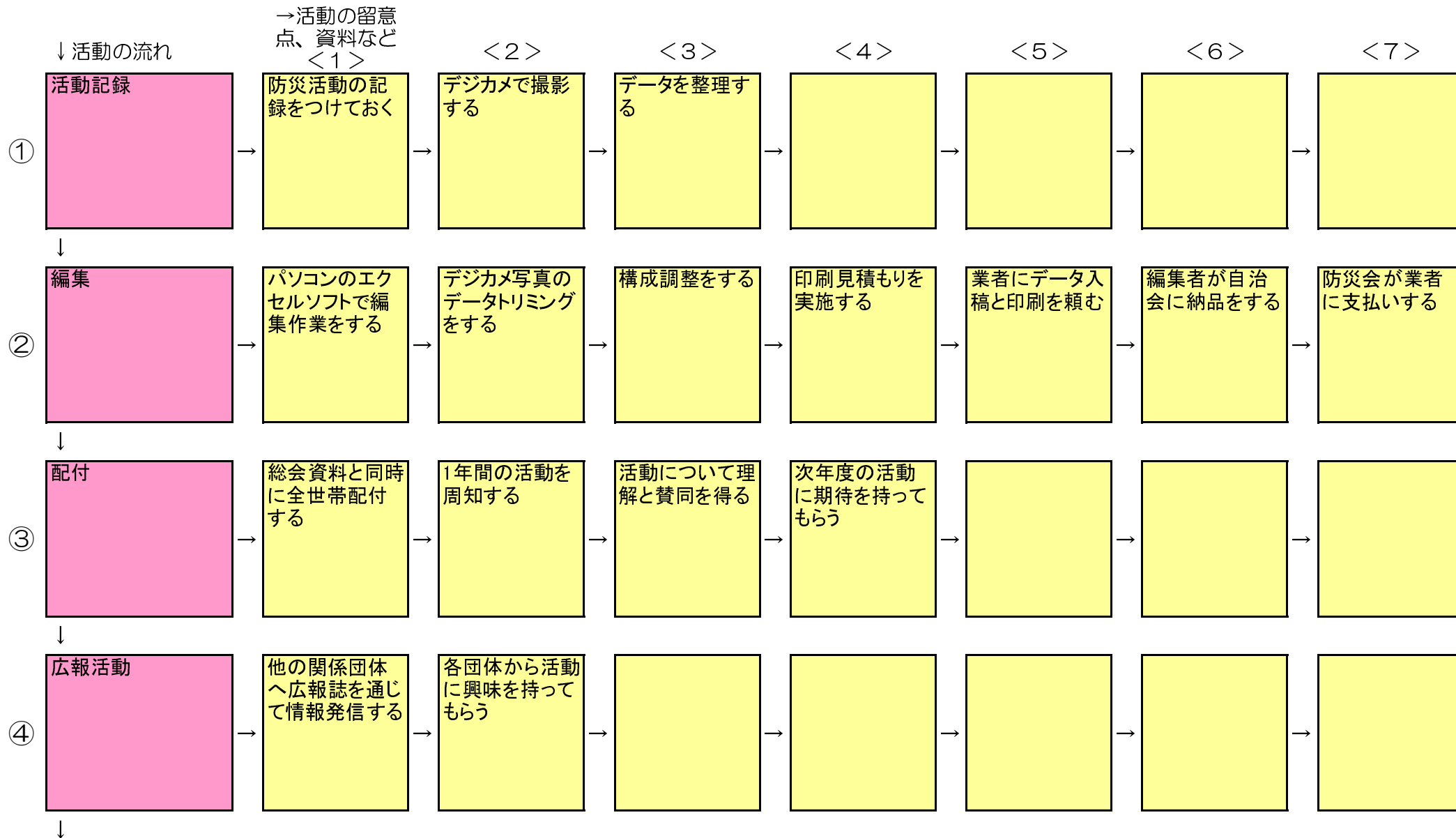
⑨ 必要なマンパワー
(実施者、役割、人数)

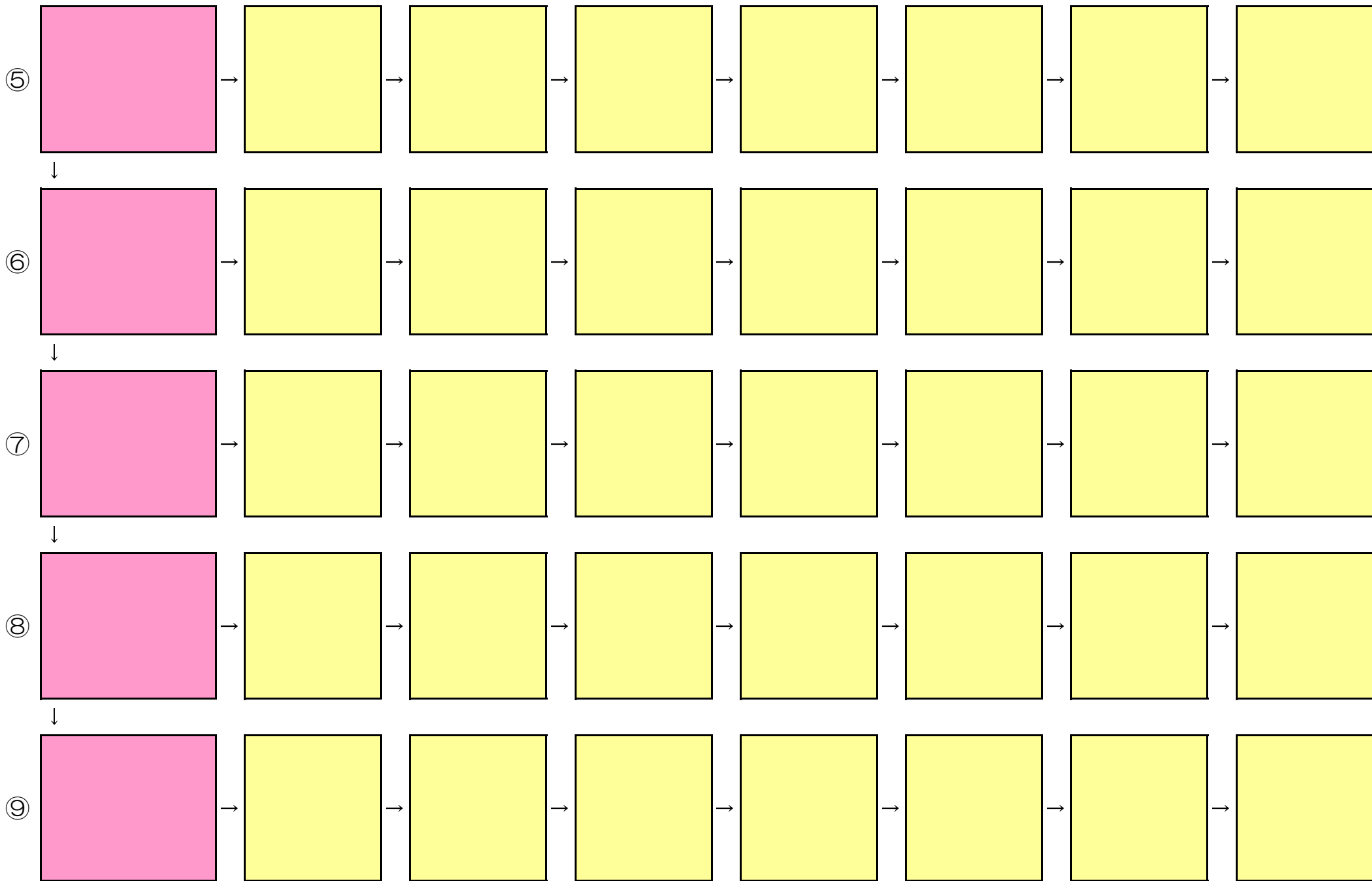
・編集者: 1名
・印刷発注作業: 2名・・・印刷業者との調整(見積もりや支払い等、データ入稿)

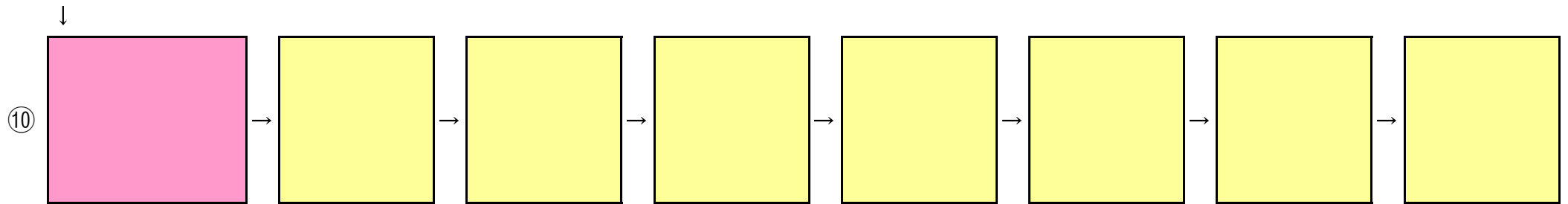
⑩ 必要経費
(所要額、財源)

・印刷代: 50円/1枚(×220世帯分=11,000円)※福祉事業所へ発注しているため格安で行ってもらっている。
※防災会負担

■活動の流れ







■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

全世帯へ配布が必須(カラーで)

②その他の評価

他地域からの評判

■備考・その他(活動のコツなど)

①活動のコツなど

・年間通じてデジカメ撮影を忘れない。防災通信に掲載することを考えて撮影に気を配る。なぜなら、同じ人ばかり撮影していないか、多くの参加してもらった人を撮影することで、多くの住民に賛同を得やすくなる。また、子どもの撮影には注意を払う。
・地域の福祉団体に印刷をお願いすると喜んでもらえるし、費用も安くなる。

②参考資料等

※ 活動指導案作成のための準備物 : ①写真(活動の代表的な写真、流れがわかる写真等)、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

活動指導案

実践団体名 新中町防災会

■基礎データ

2009-35

① タイトル

昔ながらの地域コミュニティと新興住宅との連携による防災合同訓練を実施する

② 活動の概要

檀原市中町の2つの自治会(防災会)が合同で防災訓練を開催する。昔から受け継いできた文化と歴史を備え持つ「本村」と昭和の高度経済成長時代に出来た「新興住宅地」のお互いの地域資源をフルに活用しながら地域の住民が協力して開催する。

③ 目標・ねらい

住民が安心して暮らせるまちづくりを進めるため、いざという時に、お互いに助け合いができるような地域ぐるみの災害に強い人的ネットワークの形成を図る。

④ 活動で上げることが
できる力・能力

・災害に強い人的ネットワークの構築
・昔ながらの地域コミュニティと新興住宅地での防災時の連携体制の確立(消火活動の強化、避難誘導のシミュレーション能力向上、緊急時の炊き出し体制整備)

⑤ 対象者(受ける側)

同じ地域にある2つの自治会(新旧)

⑥ 活動・作業形態

避難誘導訓練→本村のため池に集合→消火訓練(ため池の水を使用した放水訓練、水消火器を使用した消火訓練)→新興住宅地の自治会館にて炊き出し訓練で作ったポタージュを食べる

⑦ 準備するもの
(道具、材料等)

・避難誘導訓練用の誘導旗、消火ポンプ、消火ホース、水消火器、炊き出し用器具等一式(鍋、ガス、水、食材等)

⑧ 所要時間

9~15時

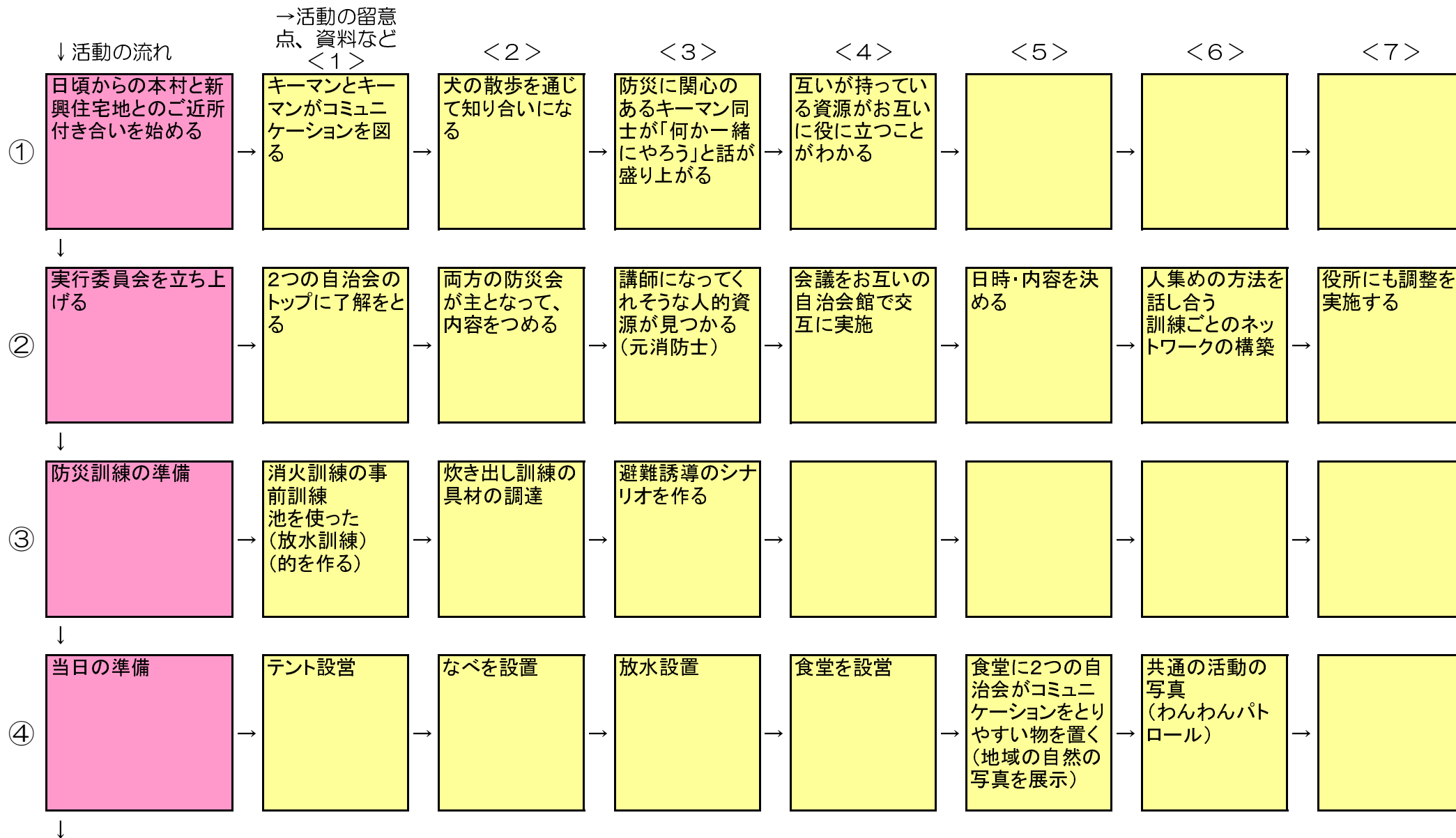
⑨ 必要なマンパワー
(実施者、役割、人数)

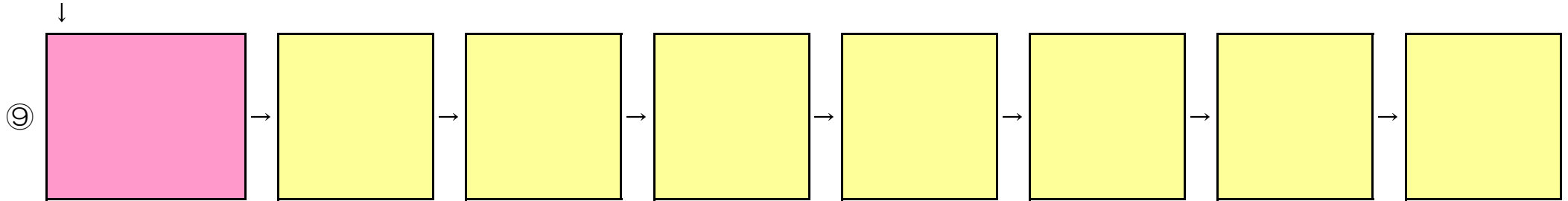
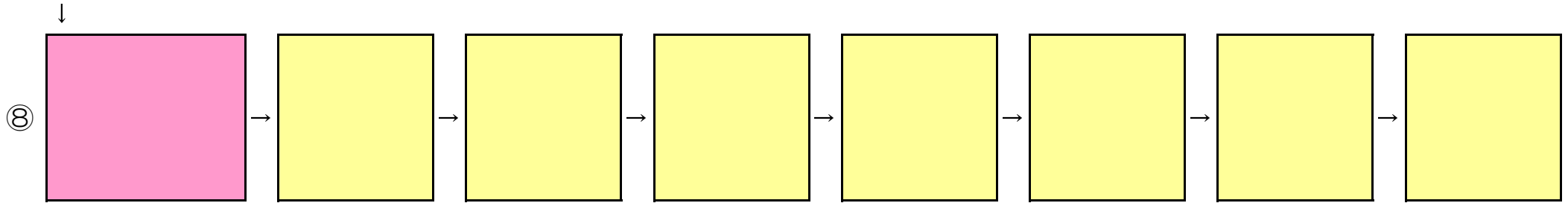
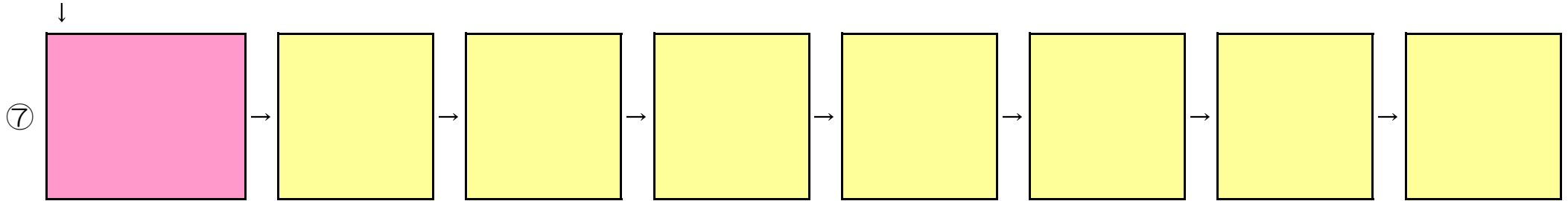
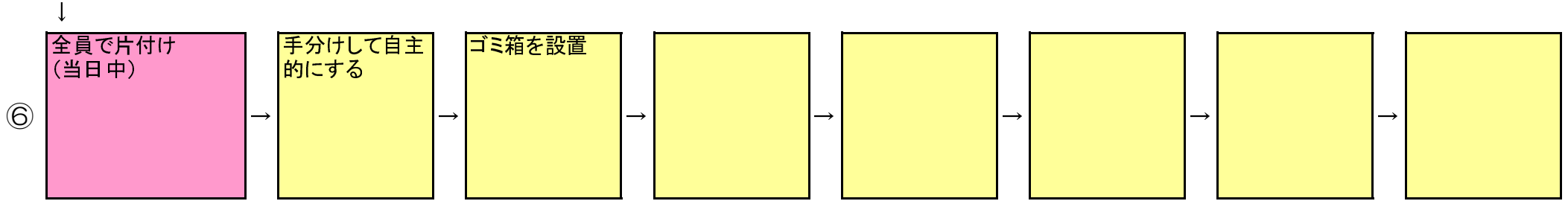
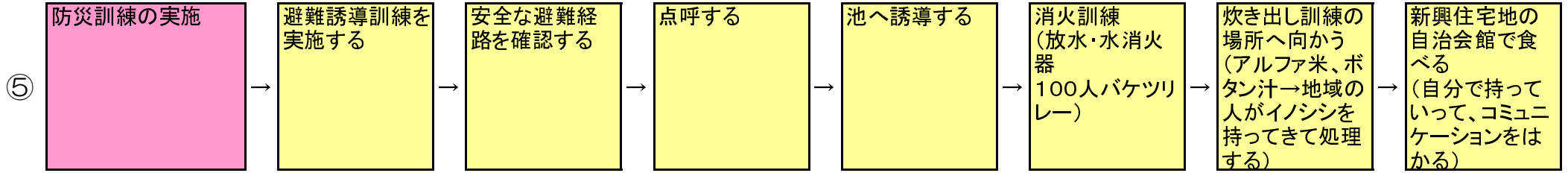
実行委員会メンバー:両方の防災会役員(約15名)、その他スタッフ:両方の自治会役員等(約15名)
避難誘導訓練:両方の防災会、消火訓練:主に本村の防災会、炊き出し訓練:主に新興住宅の防災会

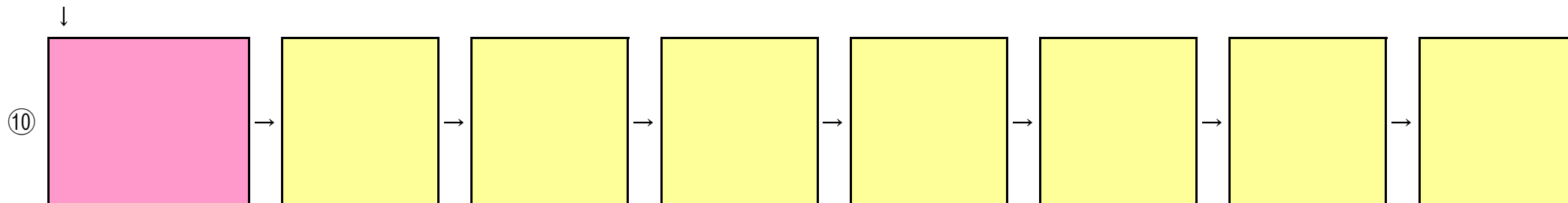
⑩ 必要経費
(所要額、財源)

炊き出し具材等:18,000円(200人分)、保険6,500円
消火訓練等:10,000円

■活動の流れ







■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

毎年続けること

②その他の評価

毎年同じ事をしない(飽きないように)、前回の反省を生かす

■備考・その他(活動のコツなど)

①活動のコツなど

- ・ご飯を食べながら①地域の写真②地域の食べ物を通じてコミュニケーションをはかる
- ・地域の人的資源を活用し、防災力を向上する

②参考資料等

※ 活動指導案作成のための準備物 : ①写真(活動の代表的な写真、流れがわかる写真等)、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

活動指導案

実践団体名 新中町防災会

■基礎データ

2009-36

① タイトル

地域の防災士の活動を通じて、主婦の視点から考えた「備蓄品・非常持出品」を準備する

② 活動の概要

防災会の防災士取得者による講座を開催。各家庭で防災対策としてどんなことをしているのかを、ご近所同士で話し合うための場を設けています。

③ 目標・ねらい

・防災関係の情報を提供することでご近所同士で話し合う切っ掛けづくりが狙い。そのため、まず、各家庭で防災対策について話し合ってもらえるような身近なことから話題提供する。
・防災士取得の目的として地域住民への防災知識の伝達を意識しながら住民の能力向上を目指すことができる。

④ 活動で上げることが
できる力・能力

・防災士の育成
・地域住民とのコミュニケーション力の向上
・各家庭における備蓄品・非常時持出品の整備

⑤ 対象者（受ける側）

地域住民

⑥ 活動・作業形態

自治会館にて15～20名（自治会の15班を5グループに分けて5回実施）集めて、防災士から講義をする。

⑦ 準備するもの
（道具、材料等）

講義資料（パワーポイントにて資料作成）、机、椅子、パソコン、プロジェクター

⑧ 所要時間

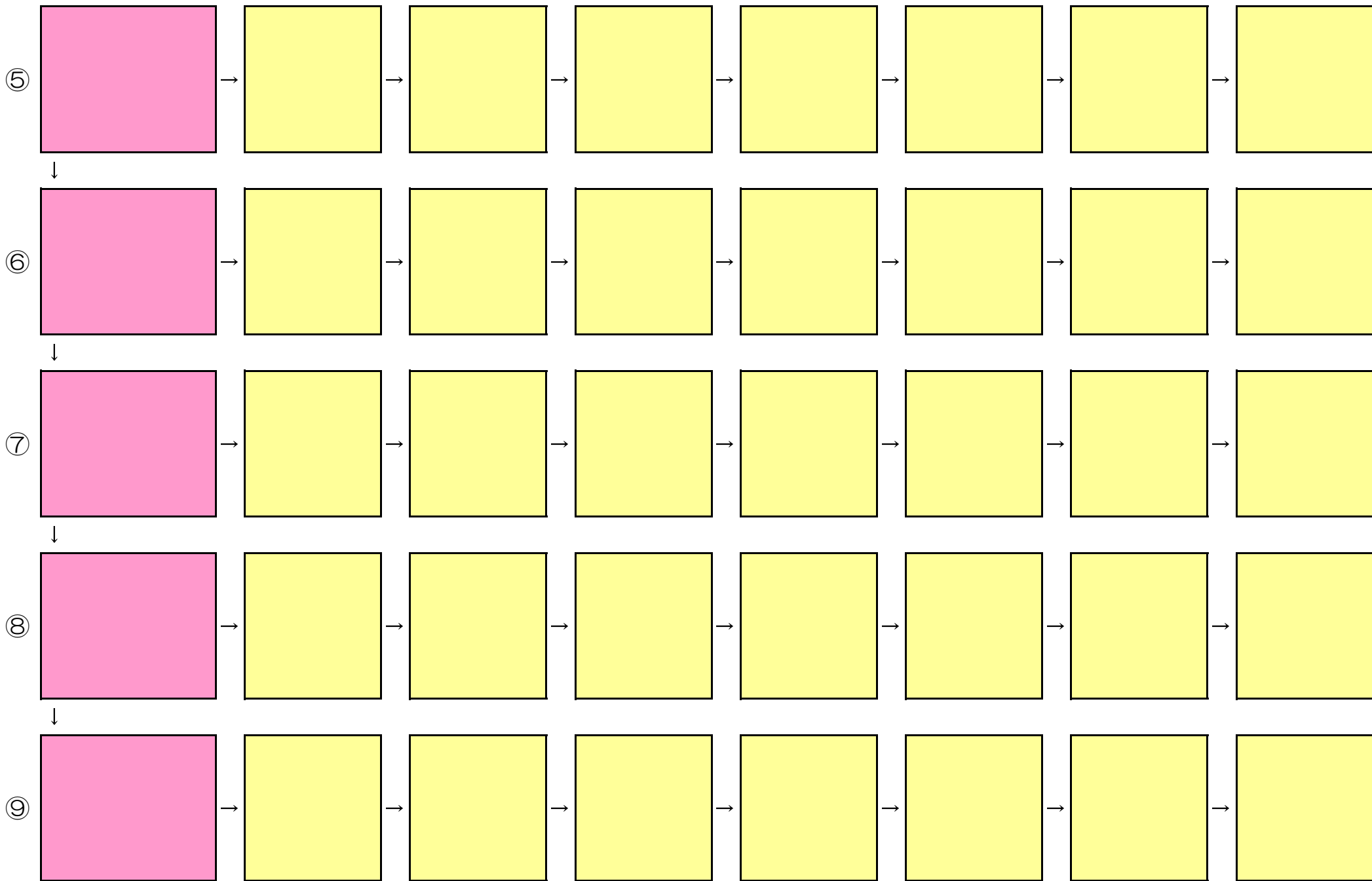
30分程度

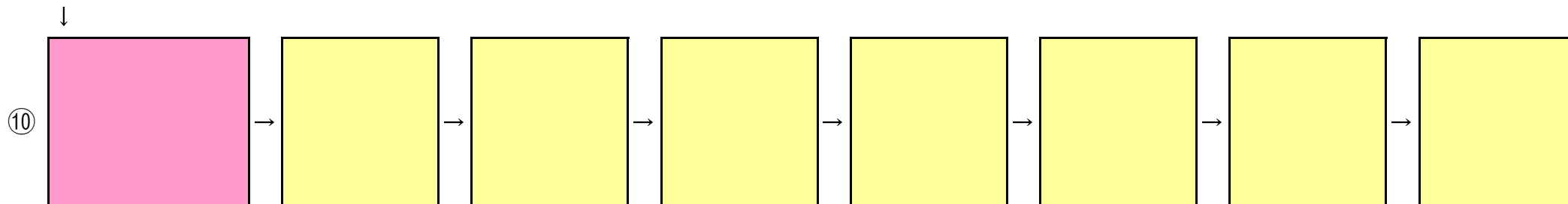
⑨ 必要なマンパワー
（実施者、役割、人数）

・資料作成者＝防災士＝講演者＝1名
・日程調整：防災役員2名

⑩ 必要経費
（所要額、財源）

・印刷費：1,000円／回 × 5回 = 5,000円





■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

200世帯を15組を3組にして、ブロック年1回、計5回実施

②その他の評価

防災訓練の際に手作りした「備蓄品、非常持出品」を背負ってきた人がいた

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

具体的な物、購入場所を主婦の目線でアドバイスする

②参考資料等

※ 活動指導案作成のための準備物 : ①写真(活動の代表的な写真、流れがわかる写真等)、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等